平成２０年２月の解説（府県天気予報）

【２月の天候状況】

上旬は本州の南海上を低気圧がしばしば通過したため西日本や東日本で曇りや雨または雪の日が多くなりました。中旬は冬型の気圧配置の日が多く、日本海側では雪や雨の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。下旬は日本付近を低気圧が数日周期で通過し、低気圧の通過時には全国的に雨や雪が降り、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となって日本海側の地方で雨や雪が降り、太平洋側の地方では晴れました。

月を通しての日照時間は、北日本の太平洋側、東日本・西日本の日本海側で平年並、その他の地方では平年より少なくなりました。降水量はほぼ全国的に平年より少なくなりました。月平均気温は、北日本で平年より低く、東日本は平年並、西日本は平年より高くなりました。

【２月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 81%で例年（注）より 2 ポイント低く、明後日予報が 80%で例年と同じでした。地方毎の適中率では、明日予報は近畿、九州北部、沖縄地方で例年より 5 から 8 ポイント低く、九州南部地方で例年より 6 ポイント高くなりました。明後日予報は沖縄地方で例年より 8 ポイント低く、四国地方で 5 ポイント、九州南部地方で 11 ポイントそれぞれ高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、東北、関東甲信、東海、近畿地方で例年より0.4℃から0.6℃小さく、全国平均は例年より0.3℃小さい1.4℃でした。また、最低気温の予報誤差は、北陸地方で例年より 0.4℃小さく、全国平均は例年より 0.2℃小さい 1.4℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【２月の天気予報から】

2月6日、本州の南海上を低気圧が東へ進み（図１）、関東地方では南部を中心に雪や雨が降りました。東京（大手町）では朝から雪が降り始め、終日雪やみぞれが

降って3㎜の降水量を観測しました。

2月5日の夕方に発表した東京地方の明日の天気予報では、この日の天気を「くもり　所により　朝から雪」（天気マークは雲りのマーク）と予報しました。

6日は低気圧が本州の南海上を東に進むと予想し、関東地方南部の沿岸地方ほど雨や雪が降り易いと考えましたが、東京地方は降水域の北の端にあたるため一部では雪が降るものの、広い範囲で降ることはないと判断したためです。

低気圧は予想通りに進みましたが、降水量は沿岸の神奈川県よりは、むしろその北の東京地方で多くなり、東京地方のほとんどの観測地点で降水量1㎜以上の雪や雨が降りました（図２）。

低気圧の周辺では雨や雪が降り易くなりますが、雨雲や雪雲の分布は低気圧の構造や地形などによって様々に変化します。特にこの事例のように雨や雪が降るか降らないかの境界にあたる場合には天気予報が非常に難しくなります。

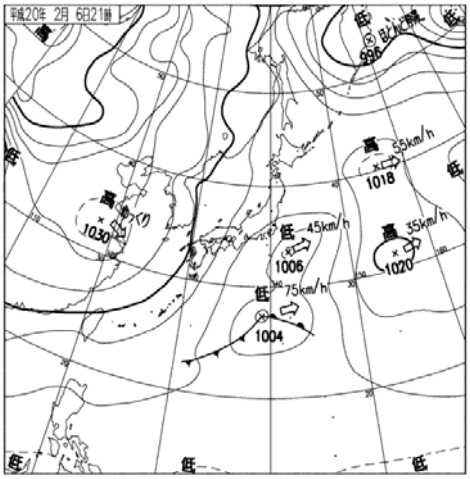

図１　平成 20 年 2 月 6 日 21 時の地上天気図

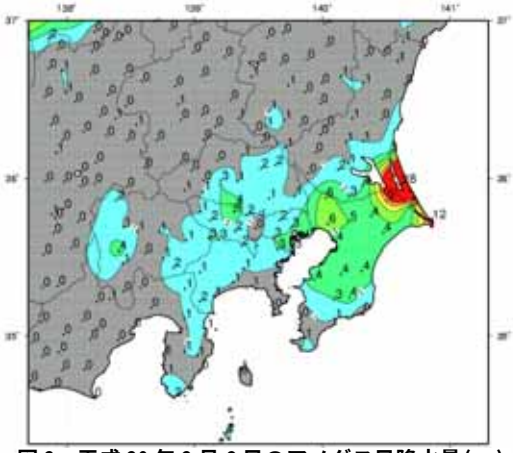
図２　平成 20 年 2 月 6 日のアメダス日降水量(㎜)

【４月の天気予報の利用にあたって】

4 月は比較的、気象災害が少ない月ですが、低気圧が発達しながら日本付近を通過するときには強風、大雨など、大荒れの天気になって災害が発生することもあります。また、このような時には、多雪地では雪解けが一層進みますので注意が必要です。低気圧が発達しながら通過して大荒れの天気が予想されるような場合は、気象庁は１～２日前にあらかじめ「低気圧に関する気象情報」などを発表します。このようなときには、その後に発表される最新の気象情報を活用して、風の強さや雨の降り方等に注目して下さい。